

報道関係 各位

2017年9月4日

株式会社日本レースプロモーション

9月9日(土)～10日(日)
2017年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第5戦 オートポリス
開催概要

株式会社日本レースプロモーション(代表取締役社長 倉下 明、所在地:東京都千代田区)は、9月9日(土)～10日(日)の2日間、大分県日田市上津江町上野田 オートポリスインターナショナルレーシングコース(1周:4.674km)において、「全日本スーパーフォーミュラ選手権」第5戦を開催いたします。

尚、オートポリスでの開催は、昨年4月に発生した熊本地震の影響により予定されていた大会が中止となった為、2年ぶりの開催となります。

今大会は、ノックアウト方式による公式予選と、決勝レース54周(252.396 km.)にて争われます。

第5戦が行われるオートポリスは、中高速系のコーナーが多くアップダウンが激しいテクニカルなコースで、ドライバーにとって攻めがいのあるサーキットと言われています。また、スーパーフォーミュラとしてヨコハマタイヤで走行する初めてのレースとなります。

今大会も、前戦に続きシーズンを通して使用されているミディアムタイヤに加えてソフトタイヤが投入され、決勝レース中には両スペックのタイヤを使用することが義務付けられています。オートポリスは、ハードなコースレイアウトの上に路面の μ (ミュー:摩擦係数)が高く、タイヤへの負担のかかり方もツインリンクもてぎとは大きく異なるため、前戦と同じ2スペックタイヤとはいえサーキット特性に合わせ予選・決勝を通して如何に有効に使い分けるのか、今大会もチームの戦略に注目です。また、通常のサーキットでは右側から給油を行います。オートポリスのコースレイアウトでは左側から給油を行うことになるため、ピットワークにも影響が出やすくチーム力も問われます。

シリーズランキングは、前戦において Q1敗退を喫しながらも予選ながらのタイムで追い上げ4位を獲得した石浦 宏明(ピーエムユーセルモインギング)が、ドライバーポイントをさらに伸ばしランキングトップ。終盤、怒涛の追い上げを見せたアンドレ・ロッター(バンテリン チーム トムス)が2位、ピット作業ミスで惜しくも初優勝を逃した小林可夢偉(ケーシーエムジー)もランキング上位に上がってきました。これらの実力者たちに対して、スーパーフォーミュラ参戦わずか4戦目で優勝を飾ったピエール・ガスリー(チーム・ムゲン)や、各レースで手堅い走りを見せるフェリックス・ローゼンクヴィスト(スノコ チーム ルマン)などのルーキーたちもチャンピオン争いにしっかりと食い込んでおり、彼らの走りにも注目が集まります。

このオートポリスの一戦は、年間チャンピオンを占う上でも大変重要な一戦となります。



ドライバーポイントトップでシリーズを折り返す No.2 石浦 宏明(ピーエムユーセルモインギング)

Series Partner

HONDA TOYOTA

Series Supporter

YOKOHAMA

Promotion Partner

HITACHI Inspire the Next
©日本オートモティブシステムズ
SONY Action Cam
人気酒造

Broadcasting Partner

BSフジ **J SPORTS**

公式予選

ノックアウト方式

- Q1 (20分間) 上位14台がQ2に進出。15～19位の順位が確定。
- Q2 (7分間) 上位8台がQ3に進出。9～14位の順位が確定。
- Q3 (7分間) 1～8位の順位が確定。

- ・セッションの間のインターバルは各10分
- ・ノックアウト方式の名称は、予選にて好タイムが出なければその場でノックアウト(脱落)されることから、この呼称となりました。

※Q1=ミディアムタイヤのみ使用可能。

※Q2、Q3=ソフトタイヤ、ミディアムタイヤの使用が可能。

決勝レース

54周 (1周: 4.674km×54周=252.396km)

※決勝レースでは、ソフトタイヤ、ミディアムタイヤ、2種類の使用が義務付けられています。

ソフトタイヤ

今大会では、通常の「ミディアム」タイヤに加え、よりグリップを増した「ソフト」タイヤが供給されます。昨年のもてぎでも投入されたソフトタイヤですが、昨年のもとはコンパウンドを含め一新されており、よりハイグリップとなる代わりにタイヤの劣化が早くなるよう開発が行われました。

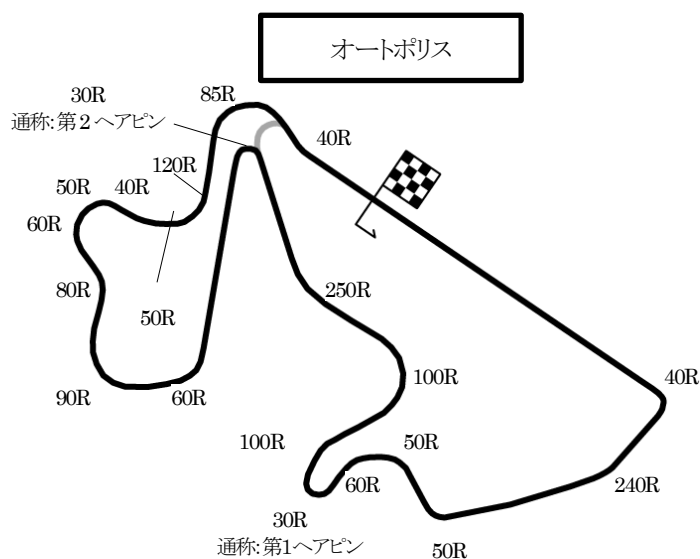
オートポリスではミディアム新品2セット、ソフト新品2セットが供給され、金曜日は前戦からの持ち越し中古タイヤ2セット(中古の種別はミディアム、ソフト両方とも可能)を使用します。



オートポリスについて

阿蘇外輪山の雄大な地形を生かした、全長 4,674m の長さを誇る国際公認コースです。

ホームストレート 902m、高低差 52 メートル、最大上り勾配 7.2%、下り勾配 10%とアップダウンが激しく、中高速系のコーナーが多いテクニカルなコースです。日本では珍しく、ピットロードがコースの外側にあり、ピットから見るとマシンの走行方向が他のサーキットと逆になります。



Series Partner

HONDA TOYOTA

Series Supporter

YOKOHAMA

Promotion Partner

HITACHI Inspire the Next
©日立オートモティブシステムズ

SONY Action Cam

総 人気酒造

Broadcasting Partner

BSフジ **J SPORTS**

2017年 全日本スーパーフォーミュラ選手権第5戦 エントリーリスト

(車両:SF14、タイヤ:ヨコハマ)

2017年3月4日現在

Car No.	ドライバー名	生年月日	出身地	チーム名 (読み)	監督	エンジン
1	国本 雄資 Yuji Kunimoto	1990/ 9/12	日本/神奈川県	P.MU/CERUMO・INGING (ピーエムユーセルモイニング)	立川 祐路	TOYOTA RI4A
2	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	1981/ 4/23	日本/東京都			
3	ニック・キャシディ Nick Cassidy	1994/ 8/19	ニュージーランド	KONDO RACING (コンドーレーシング)	近藤 真彦	TOYOTA RI4A
4	山下 健太 Kenta Yamashita	1995/ 8/ 3	日本/千葉県			
7	フェリックス・ローゼンクヴィスト Felix Rosenqvist	1991/11/ 7	スウェーデン	SUNOCO TEAM LEMANS (スノコ チーム ルマン)	片岡 龍也	TOYOTA RI4A
8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	1987/ 4/30	日本/群馬県			
10	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	1986/11/20	日本/栃木県	REAL RACING (リアルレーシング)	金石 勝智	HONDA HR-417E
15	ピエール・ガスリー Pierre Gasly	1996/ 2/ 7	フランス	TEAM MUGEN (チーム・ムゲン)	手塚 長孝	HONDA HR-417E
16	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	1988/ 7/11	日本/栃木県			
18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	1986/ 9/13	日本/兵庫県	KCMG (ケーシーエムジー)	土居 隆二	TOYOTA RI4A
19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	1987/12/29	日本/東京都	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL (イトウチュウエネクス チーム インパル)	星野 一義	TOYOTA RI4A
20	ヤン・マーデンボロー Jann Mardenborough	1991/ 9/ 9	イギリス			
36	アンドレ・ロッテラー Andre Lotterer	1981/11/19	ドイツ	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテリン チーム トムス)	舘 信秀	TOYOTA RI4A
37	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	1985/ 1/11	日本/愛知県			
40	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	1989/ 9/15	日本/茨城県	DOCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモチームダンディライアンレーシング)	村岡 潔	HONDA HR-417E
41	伊沢 拓也 Takuya Izawa	1984/ 6/ 1	日本/東京都			
50	小暮 卓史 Takashi Kogure	1980/ 8/ 1	日本/群馬県	B-Max Racing team (ビーマックスレーシングチーム)	組田 龍司	HONDA HR-417E
64	中嶋 大祐 Daisuke Nakajima	1989/ 1/29	日本/愛知県	TCS NAKAJIMA RACING (ティーシーエス・ナカジマレーシング)	中嶋 悟	HONDA HR-417E
65	ナレイン・カーティケヤン Narain Karthikeyan	1977/ 1/14	インド			

ホンダエンジン使用チーム:5チーム8台
トヨタエンジン使用チーム:6チーム11台

Series Partner

HONDA TOYOTA

Series Supporter

YOKOHAMA

Promotion Partner

HITACHI Inspire the Next
©日立オートモティブシステムズ
SONY ActionCam
ソニー株式会社
総 人気酒造

Broadcasting Partner

BSフジ **J SPORTS**

2017年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 ポイントランキング

ドライバーポイントランキング

順位	No.	ドライバー	ポイント	2017/4/22-23	2017/5/27-28		2017/7/8-9	2017/8/19-20	2017/9/9-10	2017/9/23-24	2017/10/21-22	
				SUZUKA Rd.1	OKAYAMA Rd.2-1 Rd.2-2		FUJI Rd.3	MOTEGI Rd.4	AUTOPOLIS Rd.5	SUGO Rd.6	SUZUKA Rd.7-1 Rd.7-2	
1	2	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	25.5	5	0.5	5	10	5	-	-	-	-
2	36	アンドレ・ロッテラー Andre Lotterer	20	4	5	3	6	2	-	-	-	-
3	7	フェリックス・ローゼンクヴィスト Felix Rosenqvist	16.5	-	-	2.5	8	6	-	-	-	-
4	15	ピエール・ガスリー Pierre Gasly	15	-	-	1	4	10	-	-	-	-
5	19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	15	-	5	5	5	-	-	-	-	-
6	37	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	13	11	-	-	2	-	-	-	-	-
7	18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	12.5	-	2.5	2	-	8	-	-	-	-
8	16	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	10.5	8	2	0.5	-	-	-	-	-	-
9	1	国本 雄資 Yuji Kunimoto	7	6	-	-	1	-	-	-	-	-
10	3	ニック・キャシディ Nick Cassidy	7	-	3	-	-	4	-	-	-	-
11	4	山下 健太 Kenta Yamashita	6.5	-	1	1.5	-	4	-	-	-	-
12	41	伊沢 拓也 Takuya Izawa	4	1	-	-	3	-	-	-	-	-
13	10	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-
14	20	ヤン・マーデンボロー Jann Mardenborough	2.5	-	1.5	-	1	-	-	-	-	-
15	64	中嶋 大祐 Daisuke Nakajima	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-
16	40	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	65	ナレイン・カーティケヤン Narain Karthikeyan	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	50	小暮 卓史 Takashi Kogure	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

*表中ポイント数字の **太字**:優勝 下線:予選ポールポジション

チームポイントランキング

順位	No.	チーム	ポイント	2017/4/22-23	2017/5/27-28		2017/7/8-9	2017/8/19-20	2017/9/9-10	2017/9/23-24	2017/10/21-22	
				SUZUKA Rd.1	OKAYAMA Rd.2-1 Rd.2-2		FUJI Rd.3	MOTEGI Rd.4	AUTOPOLIS Rd.5	SUGO Rd.6	SUZUKA Rd.7-1 Rd.7-2	
1	36 37	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテリン チーム トムス)	32	14	5	3	8	2	-	-	-	-
2	1 2	P.M.U./CERUMO - INGING (ピーエムユーセルモインギング)	30.5	11	0.5	4	10	5	-	-	-	-
3	15 16	TEAM MUGEN (チーム ムゲン)	25.5	8	2	1.5	4	10	-	-	-	-
4	19 20	ITOHU ENEX TEAM IMPUL (イトウチュウエネクス チーム インパル)	16.5	-	5.5	5	6	-	-	-	-	-
5	7 8	SUNOCO TEAM LEMANS (スノコ チーム ルマン)	16.5	-	-	2.5	8	6	-	-	-	-
6	18	KCMG (ケーシーエムジー)	12.5	-	2.5	2	-	8	-	-	-	-
7	3 4	KONDO RACING (コンドー レーシング)	12.5	-	4	1.5	-	7	-	-	-	-
8	40 41	DOCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモチームダンディアンレーシング)	5	1	-	-	3	1	-	-	-	-
9	10	REAL RACING (リアルレーシング)	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-
10	64 65	TCS NAKAJIMA RACING (ティージーエス・ナカジマレーシング)	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-
	50	B-Max Racing team (ビーマックスレーシング チーム)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

*表中ポイント数字の **太字**:優勝

*チームポイント:各チーム(エントリー)に所属するドライバーの獲得ポイントを合計。同一チーム(エントリー)に2台以上の車両が所属する場合は、上位2台分が得点対象となる。チームポイントには、ポールポジションのポイントは与えられない。

Series Partner

HONDA TOYOTA

Series Supporter

YOKOHAMA

Promotion Partner

HITACHI
Inspire the Next
©日立オートモティブシステムズ

SONY
Action Cam

ニッポン放送
NIPPON BROADCASTING
人気が湧

Broadcasting Partner

BSフジ **J SPORTS**

—開催概要—

- 大会名称 : AUTOPOLIS SUPER 2&4 RACE 2017
2017年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第5戦 オートポリス
2017年 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第7戦 スーパーバイクレース in 九州
- 開催日程 : 2017年9月9日(土) 公式予選
2017年9月10日(日)決勝レース
- 開催サーキット : 大分県 オートポリスインターナショナルレーシングコース(1周 4.674km/右回り)
- オーガナイザー : 一般財団法人 日本モーターサイクルスポーツ協会(MFJ)
オートポリス倶楽部(APC)
株式会社オートポリス
- 公 認 : 国際自動車連盟(FIA)
一般社団法人日本自動車連盟(JAF)
国際モーターサイクルリズム連盟(FIM)
- 認 定 : 株式会社日本レースプロモーション(JRP)
日本フォーミュラスリー協会(JF3A)
Honda ワンメイクレース事務局(HORS)
- 協 力 : 株式会社ブライト
株式会社テレビ熊本(TKU)
- 後 援 : 文部科学省 / 観光庁 / 大分県 / 熊本県 / 日田市 / 菊池市 / 阿蘇市 / 柳川市 / 大津町 / 小国町 / 南小国町 / 産山村 / 日田市教育委員 / 菊池市教育委員会 / 阿蘇市教育委員会 / 柳川市教育委員会 / 大津町教育委員会 / 小国町教育委員会 / 南小国町教育委員会 / 産山村教育委員会 / 日田市観光協会 / 菊池観光協会 / 阿蘇市観光協会 / 柳川市観光協会 / 肥後おおづ観光協会 / 小国町ツーリズム協会 / 杖立温泉観光旅館協同組合 / 南小国町観光協会 / 産山村観光協会
- 同日開催 : 2017年 全日本F3選手権シリーズ 第17戦 & 第18戦
2017 N-ONE OWNER'S CUP Rd.12

Series Partner

HONDA TOYOTA

Series Supporter

YOKOHAMA

Promotion Partner

HITACHI **SONY**
Inspire the Next
Action Cam
総 人気酒造

Broadcasting Partner

BSフジ **J SPORTS**

【TV放映予定】

■ BSフジ 決勝戦生中継『2017スーパーフォーミュラ第5戦オートポリス』

番組では現地の臨場感をそのままお届けします。オフィシャルコメンテーター・ピエール北川と、アンバサダー本山哲の場内実況がサーキットの臨場感をリアルに伝え、ピットからはレース解説に定評のある松田次生と、今シーズンから初参戦の東(ひがし)美樹が、現場の緊張感をレポートします。

○実況:ピエール北川

○解説:本山哲

○ピットリポーター:松田次生、東(ひがし)美樹

○放送時間:2017年9月10日(日) 13:00~14:55

■ BSフジ『スーパーフォーミュラ GO ON!』

番組では、注目のレース関係者や豪華ゲストを招き「人」をテーマにトークを展開、スーパーフォーミュラの魅力に迫ります。MCは小林可夢偉と中嶋大祐の現役ドライバー2人。その2人をピエール北川がサポートし、さらに乃木坂46の樋口日奈がナレーターとして華を添えます。加えて、レースダイジェストコーナーでは、ピットリポーター松田次生がトップドライバーならではの徹底解説をお届けし、東美樹が現地でアシストをします。

《放送時間》

第5回: 2017年 9月 2日(土) 23:00~23:55
2017年 9月 3日(日) 25:00~25:55(再放送)

第6回: 2017年 9月17日(日) 25:00~25:55
2017年 9月23日(土) 23:00~23:55(再放送)

■ J SPORTS

全7戦の予選と決勝の模様をライブ中継。再放送やレースダイジェスト番組もOASISします。

第5戦オートポリス。

詳しくは jsports.co.jp をご参照下さい。

予選 2017年 9月 9日(土) 13:30~15:30 J SPORTS 3 <生中継>

決勝 2017年 9月10日(日) 12:40~15:30 J SPORTS 3 <生中継>

【映像の配信】

■ GYAO!

大会終了15日後よりスーパーフォーミュラの決勝レースを全戦オンデマンドにて無料配信。

※配信日時は変更となる場合があります。

<http://gyao.yahoo.co.jp/sports/>

■ YouTube

予選ならびに決勝の競技映像をダイジェスト版にて当日夜配信。

※配信日時は変更となる場合があります。

詳しくは予選ならびに決勝日の夜、「スーパーフォーミュラ オフィシャルウェブサイト」(<http://www.superformula.net/>)

でご確認ください。

superformulavideo-YouTube

<http://www.youtube.com/user/superformulavideo>

【インターネット／SNS】

- スーパーフォーミュラオフィシャルWEBサイト

<http://superformula.net>

- スーパーフォーミュラオフィシャルFacebook

<https://www.facebook.com/superformula.official>

- スーパーフォーミュラオフィシャル twitter

https://twitter.com/SUPER_FORMULA

【チケット情報】

- 前売観戦券(2日間有効)

大人1名:4,860円

※お車でご来場の場合は、別途駐車券が必要です

- 前売1日駐車券(四輪普通車)

864円

※9/9、10のいずれか1日のみ有効

※全長5.4m×全幅2.2m以内の車両

- 前売2日間通し駐車券(四輪普通車)

1,620円

※全長5.4m×全幅2.2m以内の車両

- 前売2日間通しピットウォークパス

3,240円

- 前売2日間通しパドックパス

5,400円

- 前売2日間通しパドック・ピットウォークパス ※当日券:販売無し

8,100円

- 前売2日間通しパドック・ピットウォーク・グリッドウォークパス ※当日券:販売無し

11,340円

※観戦券以外のオプションチケットには別途観戦券が必要になります。

※中学生以下は入場無料(保護者同伴に限る)

レースチケットのご案内(<http://www.autopolis.jp/2and4/ticket/index.html/>)をご参照ください。

*この件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

株式会社日本レースプロモーション (<http://www.superformula.net/>)

102-0074 東京都千代田区九段南2-3-25 平安堂ビル

e-mail: media@superformula.net

Tel:03-3237-0131 Fax:03-3237-0135

Series Partner

HONDA TOYOTA

Series Supporter

YOKOHAMA

Promotion Partner

HITACHI
Inspire the Next
Action Cam

SONY
SONY
人気酒造

Broadcasting Partner

BSフジ **J SPORTS**

【2017年 全日本スーパーフォーミュラ選手権参考資料】

1. 全日本スーパーフォーミュラ選手権とは？

純然たるレーシングマシンであるオープン・シングルシーターのフォーミュラカーによって競われる国内最高峰の自動車レースです。一般社団法人日本自動車連盟(JAF)が公認し、株式会社日本レースプロモーションのプロモートにより、1996年にフォーミュラ・ニッポンとしてスタート。2013年より名称をスーパーフォーミュラに変更し現在に至っています。

2. チャンピオンシップ

2017年全日本スーパーフォーミュラ選手権は、全7戦、日本全国6カ所のサーキットを11チーム(エントリー)、国内外の19名(19台)のドライバー(※1)が転戦しチャンピオンが争われる、アジア地域唯一の国際格式選手権シリーズです。

(※1)ドライバー:国内:13名、海外:6カ国(ニュージーランド、スウェーデン、フランス、イギリス、ドイツ、インド)6名

2017年全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ開催スケジュール

日程	ラウンド/サーキット	予選方式	決勝レース方式
4 / 22 ~ 23	第1戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	200 km
5 / 27 ~ 28	第2戦/岡山国際サーキット	計時予選/ノックアウト	2 レース制
7 / 8 ~ 9	第3戦/富士スピードウェイ	ノックアウト	250 km
8 / 19 ~ 20	第4戦/ツインリンクもてぎ	ノックアウト	250 km
9 / 9 ~ 10	第5戦/オートポリス	ノックアウト	250 km
9 / 23 ~ 24	第6戦/スポーツランド SUGO	ノックアウト	250 km
10 / 21 ~ 22	第7戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	2 レース制

2017年シリーズ選手権 ポイントシステム

順位	優勝	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位以下	pp
1大会1レース	10	8	6	5	4	3	2	1	0	1
1大会2レース	5	4	3	2.5	3	1.5	1	0.5	0	1

*P.P.:ポールポジション(予選1位)には、ドライバーにのみ1ポイントが与えられます。チームポイントには加算されません。

*1大会2レース制の場合、レース1、レース2共に1レース制の得点の半分が与えられます。

*1大会2レース制の場合、最終戦に限りレース1、レース2の勝者には通常ポイントとは別に3ポイントが与えられる。

これによりポールポジション+2連勝で最大18ポイントが与えられます。

*最終戦終了時点で、複数のドライバーまたはチーム(エントリー)が同一ポイントを獲得している場合は、高得点を得た回数が多い順に順位を決定します。

3. シリーズ賞典

シリーズ賞典として、年間チャンピオンドライバーには、株式会社日本レースプロモーションよりシリーズドライバーズチャンピオンカップと賞金が授与されるほか、自由民主党モータースポーツ振興議員連盟より同連盟杯が贈られ、観光庁より観光庁長官杯が交付されます。また年間チャンピオンチームには経済産業省より経済産業大臣杯が交付され、株式会社日本レースプロモーションより賞金が授与されます。

Series Partner

HONDA TOYOTA

Series Supporter

YOKOHAMA

Promotion Partner

HITACHI Inspire the Next
日立オートモティブシステムズ
SONY ActionCam
ソニー
人気気流

Broadcasting Partner

BSフジ **J SPORTS**

4. レース車両

◎シャシー

「クイック・アンド・ライト」をキーワードに開発されたSF14(イタリアダラーラ社製)を2014年より採用。
この車両を採用して以来、レースの質が一気に向上した事から海外からの注目を集めるようになりました。

◎エンジン

日本を代表する自動車メーカーであるホンダとトヨタが次世代エンジン開発に貢献するコンセプト=NRE(※2)に基づき開発したHONDA HR-417E、TOYOTA R14A を搭載しています。

このエンジンの特徴としては「燃料リストラクター」(燃料流量規制システム)を全機装備し、燃料流量を一定にすることにより燃料をいかに効率良く活用しパワーに結びつけるかが、勝負の鍵となります。

厳しい開発競争の結果、効率の良さを図る“正味燃費消費率(BSFC)”、“正味熱効率”では市販ハイブリット車以上の性能を発揮しており、次世代エコエンジンの開発に貢献しています。

(※2)NRE エンジンについて

ホンダ、トヨタ、ニッサンが、環境技術とモータースポーツの面白さの両立に向けて決定したエンジン規定。

- ・気筒配列 : 直列4気筒
- ・排気量 : 2,000cc+ターボ
- ・燃料吸気方式 : ダイレクトインジェクション
- ・燃料流量制限 : 鈴鹿、富士大会… 燃料流量95kg/h
その他大会………燃料流量90kg/h

◎オーバーテイクシステム

レースを盛り上げる一助として、オーバーテイクシステム(以下OTS)を2009年より採用しています。

このシステムは、スーパーフォーミュラが始めた仕組みです。

当該システムは、レースに於ける見せ場の一つである追い越しをより促すシステムです。

SF14のシステムは、各エンジンに装備されている燃料リストラクターを活用し、燃料供給量を一時的に増加させパワーを上げることができます。(※3)ステアリングにあるボタンを操作し、1大会につき5回、各20秒間使用可能となります。使用中は、ドライバーのヘルメット後方にあるランプ(オーバーテイクランプ=OTL)が点滅し、観客からも視認できます。

またポイントリーダードライバーは、その荣誉を称える意味から1台だけ赤色のランプ(名称:リーダーズレッド)を装着しています。

(※3)オーバーテイクシステムの効果について

- ・メカニズム : システム作動時に燃料流量を10kg/h増加させる
- ・効果 : 約60ps、10%の出力増
- ・ルール : 1回に20秒間作動、1大会で5回使用可能

◎タイヤ

2016年シーズンより横浜ゴム製のワンメイク供給です。横浜ゴムのスーパーフォーミュラ用ADVANレーシングタイヤは、スーパーフォーミュラが要求するグリップ、耐久性、安全性などの厳しい目標に対し、高いパフォーマンスを発揮、レースの盛り上げに貢献しています。